

災害に強いまちづくり 移動しやすいまちづくり

わたしたちで気楽に語り合いませんか

西淀川交通まちづくりプロジェクト2回目を開催しました

12月25日（日）に、あおぞらイコバにて、西淀川交通まちづくりプロジェクトの2回目を開催しました。参加者はスタッフを合わせて全部で10人です。クリスマスの日の開催でしたが、熱心な話し合いが行われました。



災害に対するみんなの意見

話し合いの中で、次のような意見が出ました。



■体験から学ぶことの大事さ■

- ・ 西淀川の水害の記憶、阪神・淡路大震災を忘れつつある。ほりおこしてもよいのではないか。
- ・ どうやって助かったのか、どうやって他の人を誘導したのかなどの体験者の話を聞きたい。

■災害への備えについて■

- ・ 津波は上、地震、火災は下に逃げる。状況によって対応が違うだろう。
- ・ 工場やスーパー等、どこに逃げるべきかは地域ごとに決めていく方がよさそう。
- ・ 災害時に、避難施設を知らない人を誘導できる看板がないので必要。
- ・ 公が何もかもしてくれるというところから脱皮し、個々で考えていった方がよい。
- ・ 危機管理を個人が意識できるようにする工夫が必要ではないか。



■災害発生時の呼びかけ■

- ・ 誰かに「逃げる」といえば、それについていく人も多い。地域ごとにみんなに「逃げる」と呼びかける体制が必要。
- ・ 躊躇して逃げおくれる人が半分くらいいると聞いた。
- ・ 住民の立場で、高齢者などの弱者の視点から情報提供をしてほしい。高齢者、障害者、子どもに一早く伝えて逃げさせる。
- ・ インターネット、それ以外の両方の情報提供が必要。

今後の取組について

これらの話し合いをふまえて、以下の様な取り組みをしてはどうかということになりました。

- ・ 専門家を呼んで学習会をしてほしい。
- ・ 大阪市や西淀川区内の防災の動きをおさえない。
- ・ 避難ルートについては、バリアフリーの話とセットにしていきたい。
- ・ マップをつくるよりも個々の団体の取り組みを知らせていくほうがよいのではないか。

防災まちづくり講演会 災害に強いまちづくりに対して 市民ができることは何か —大阪の災害の危険性、防災対策について—

- 3月11日に発生した東日本大震災を受けて、西淀川区でも災害発生時の避難に対する危機感が強まっています。
- 一人でも多くの命を救い、都市を守るためには、災害に強いまちづくりに対して市民ひとりひとりがどのようなことができるのかを考えていく必要があります。
- 西淀川交通まちづくりプロジェクトでは、都市の災害対策の分野でご活躍中の関西大学の越山先生をお招きして、講演会を行うことになりました。
- ご興味のある方は、どなたでもご参加いただけます。

講演 越山 健治氏



関西大学社会安全学部・大学院
社会安全研究科准教授。

1972年生まれ。

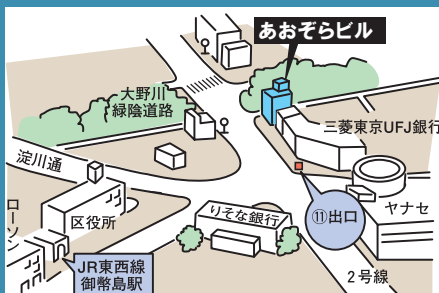
神戸大学大学院自然科学研究科
建設学専攻修了。博士（工学）。

富士総合研究所、神戸大学大学院自然科学研究科助手、
人と防災未来センター研究主幹などを経て、2010年4
月から現職。専門は都市復興論、都市安全計画論。

日時 2012年2月11日（土） **開始**：10:00 **終了**：12:00

会場 あおぞらルーム（あおぞらビル3F）

**参加費
無料**



● JR東西線御幣島駅①出口すぐ
● 阪神電車姫島駅より徒歩10分
● JR神戸線塚本駅より徒歩15分
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1

申込み
問合せ



(Tel) 06-6475-8885 (Fax) 06-6478-5885
(e-mail) webmaster@aozora.or.jp (web) http://aozora.or.jp/
申し込み締切：2月10日（金） 担当：藤江、谷内

氏名	
所属	
電話	()